

公開シンポジウム
「サプライチェーン全体での品質保証体制の強化に向けて」
世耕経済産業大臣挨拶概要
(平成30年6月25日(月)、経団連ホール)

1. はじめに

- 本日は、公開シンポジウム「サプライチェーン全体での品質保証体制の強化に向けて」に、大勢の皆さんにご参加をいただき、主催者を代表する一人として、感謝を申し上げます。

2. シンポジウム開催の趣旨

- 本日、このシンポジウムを、開催させていただきに至りました思いを、簡単にお話させていただきたいと思います。
- 昨年10月以降、一部の製造事業者における製品検査データの書換えなどが発覚し、ものづくりに携わる皆さんにとって、また、製造業を所管する経済産業省にとっても、大変ショッキングで残念なニュースが世間を賑わせました。私は、一連の事案は、各社の品質保証体制に関わることであり、企業経営そのものの問題でもあると認識しました。
- 私は、この問題が発覚した直後から、まずは安全性検証が最優先課題であると述べてきました。不正事案を起こされた企業には、現在も、それが最終製品の安全性にどのような影響が出ているのか、出ていないのか、その検証を速やかに進めていただくとともに、再発防止策を迅速・確実に実施し、顧客だけではなく社会全体の信頼回復に全力で取り組んでいただくことをお願いしています。
- 「品質」は、かねてから、日本のものづくりの競争力の源泉の1つとして認識されてきました。徹底したカイゼンやすりあわせ活動を通じ、日本の製造業は、顧客ニーズに即した高品質な製品を追求してきました。こうした先人の皆さんの現場の努力の積み重ねにより形成された、「メイド・イン・ジャパン」の製品は、世界から、非常に高品質であると高い評価を受け、今なお、それは続いています。
- 私も世界各国様々などところに行きますが、常に、私のカウンターパートの閣僚から出てくるのは、日本の品質の高さ、現場力の強さ、それをぜひ自分たちの国にも教えて欲しい、ということです。
- 今後、ものづくりの現場を支える技能人材の人手不足や第四次産業革命、Society5.0が進展する中で、日本のものづくりのあり方は大きく変容していくことが予想されますが、この先のものづくりにおいても、決して、この「品質」の重要性が揺らぐことはありません。
- 私自身も、様々なものづくりの現場を訪問・視察させていただいておりますが、日本の製造業の現場力は非常に高く、それぞれの製造現場において、日々、血の滲むような努力で、品質の改善・向上に取り組んでいただいていると本当に実感しています。こうした現場を拝見させていただく中で、私は、我が国のものづくりの現場力が弱まっている訳では決してないと痛感しています。
- しかし、一連の問題が起こっております。そしてこの問題は、「サプライチェーン」という形で様々な企業が繋がっているという点を考えると、先人達が築きあげてきた、日本のものづくりに対する信頼や競争力を全体的に奪いかねない、深刻な問題だと認識しています。
- このような現状認識のなかで、不正事案が相次いだ今、経営層の皆さんに、日本のものづくりの競争力の源泉である「品質」を改めて考える契機となる場を設けさせていただき、経営トップ自らのイニシアチブの下で、腰を据えて品質保証体制の強化に努めていただくことが重要だと考えるに至りました。
- 本日、このように大勢の経営層の皆さんにお越しいただけたことは、品質問題に対する産業界の強い関心を示すものだと思います。早速、今日から、具体的なアクションに結びつけていただきたいと、心からお願い申し上げます。

3. 製造業の品質保証体制の強化に向けて

- 昨年10月以降の相次ぐ製造業における品質検査データの書換え問題などを受け、経済産業省は、昨年12月22日、「製造業の品質保証体制の強化に向けて」と題する対応策を発表しました。折角の機会ですので、この対応策について改めて、簡単に説明させていただきたいと思っております。
- まず第1の柱は、民間主導による、自主検査の徹底です。昨年12月、経団連自身が、一連の問題を、我が国企業に対する信用・信頼を損ないかねない重要な事態と受け止め、会員企業などに対して、品質管理に関わる不正事案の点検などを呼びかけました。また、日本アルミニウム協会、日本伸銅協会、日本ゴム工業会、日本化学繊維協会、石油化学工業協会では、業界の自主的な取組として、品質保証に係るガイドラインを策定していただきました。
- このような産業界の自主的な取組が進んでいることに、私は大変心強く感じていますが、品質保証体制の強化に終わりはありません。ここで品質問題の議論を終わらせるのではなく、今日のシンポジウムを契機に、今後も産業界全体で一連の問題をフォローアップし、日本のものづくりの競争力の源泉である「品質」を更に高める努力を継続していただきたいと思っております。
- 第2の柱は、コネクテッド・インダストリーズの推進による品質確保の仕組みの構築です。コネクテッド・インダストリーズは、データを仲介して、従来つながっていなかった機械や技術、人などさまざまなものが、組織、国境、業界を越えてつながることにより、新たな付加価値の創出や社会課題の解決を目指す産業のあり方です。
- 今回の一連の問題でも、コネクテッド・インダストリーズの考えの下で、製造データや品質データを繋ぎ、ウソのつけない、また、改ざんのできない仕組みを構築し、信頼性の高い品質保証体制を構築していれば、未然に防止できた面もあるのではないかと思います。
- 今日のパネルディスカッションでは、このコネクテッド・インダストリーズの観点からの取組により、品質保証と生産性向上の両方を実現しておられる事例をご紹介いただく予定になっています。こうした優良事例を参考にし、各企業で多様な取組が行われていくことを期待したいと思っております。
- 一方、こうした取組には、一定の設備投資が必要です。経済産業省として、一定のサイバーセキュリティ対策が講じられたシステムやロボットの導入によって、企業内外でのデータ利活用を図り、生産性向上を図る取組に対して、税制面からの支援も用意をさせていただいております。
- 第3の柱は、ガバナンスの実効性向上です。さきほど申し上げた、システムやロボットなどを利用した現場での仕組みづくりに加えて、やはり、経営層・経営トップの皆さんに品質管理に対する意識を強く持っていただき、その意識を現場に浸透させる組織的な仕組みづくりが重要だと思っております。
- 私の感覚では、トップが頻繁に現場を訪れ、品質保証体制の重要性をトップ自らの声で訴えておられるような企業では、こうしたデータ改ざんといった事例は発生していないという風に考えます。
- また、経済産業省としても、昨年12月から、グループガバナンスに関する研究会を立ち上げました。今回の事案が、子会社などを舞台に起きていることを踏まえ、子会社管理を含めたガバナンスの実効性向上に向けたベストプラクティスの収集整理を通じた検討を進めており、来年春頃を目処に実務指針を策定する予定です。
- さらに、今回の一連の事案のなかで、規格値を満たさないJISマーク製品の出荷という、非常に残念な事例も認められました。登録認証機関によるJISマーク認証の取消しが行われた事案も出ていることも踏まえ、JISマークを用いた企業間取引の信用性確保を図るための罰則強化などを盛り込んだ法律が、今国会で5月23日に成立しました。

4. これからのものづくりにおける危機感の共有

- 日本のものづくりは、今、大変革の時期を迎えています。そして、今、足下で起きているこの変化は、日本のものづくりのあり方に本質的な変化を求めるものであると認識しています。
- 具体的には、これまで日本が強みとしてきた、「擦り合わせ」や「自前主義」、「ボトムアップ経営」、こうしたものが、猛烈なスピード感が求められる新たなものづくりの中では、逆に足かせとなり、変革を遅らせてしまう可能性すら出てきているという状況にあります。また、これからは、既存のプレイヤーに加えて、多様な産業から参入するプレイヤーとの異次元の競争をしていかなければなりません。こうした中で、従来の延長線上の取組では、到底、太刀打ちすることが出来ないのではないかと思います。
- 一方で、「ものづくり」や「品質」の重要性が失われる訳ではありません。私は先日、墨田区にある中小企業の金属プレス業を視察に行きまいました。その現場で非常に感銘を受けたのは、ロボットや最先端の車椅子を作ろうというアイデアがあり、図面を引くところまではいったが、なかなかものがつくれないベンチャーの20代、30代の経営者に対して、熟練の金属プレス工が、「ここをこうすれば、こういう風にできるよ」、「試作品を作ってあげよ」と、今まで彼らがチャレンジしてもできなかったものが、この熟練の金属プレス工にかかったら瞬時に出来てしまうという姿を見て、やはり、第4次産業革命の時代においても最後、製品を作るところで、日本のものづくり、そしてこの品質の高さは、引き続き、社会に、そして、世界に必要とされているということを改めて実感しました。
- 新しいものづくりの姿は、これまで先人たちが築いてこられた礎の上にあると思います。しかし、私たちに求められていることは、日本の従来の強みを大切にしながら、その礎の上に、新たなものづくりの姿を描き、日本が誇るものづくりをもう一段、この第4次産業革命の時代の中で発展させ、高めていくことではないかと思います。
- アベノミクスの効果で、足下の経営環境が好調な今こそ、経営トップのイニシアチブで、新たなものづくりを切り拓くための大胆な挑戦に挑んでいただきたいと思います。そうした挑戦の中で、ぜひ、品質保証のあり方についても、位置づけていただきたいと思います。

5. 最後に

- 最後に、今回問題を起こした企業の報告書や問題を起こしていない企業の取組を見ても、先ほども申し上げましたが、経営トップがどれだけ現場としっかりコミュニケーションができていくかという点が非常に重要である、このことをもう一度申し上げさせていただきます。改めて、経営トップのリーダーシップ、そして品質保証に対するコミットメントが問われていると思います。
- こうした問題が日本の製造業において、二度と繰り返されることがないように、本日お集まりの産業界の皆様へのリーダーシップに強く期待をして、私の挨拶とさせていただきます。

以上